



104
543

いふ可なり

平書



序

光陰ノ移リ易キヲ觀スルニ越方ノアヤマリ来レル
 身ノ思サハ歎テモ餘アリ壯年遙ニ隔タリニ驚キ
 過テハ改ルニハカルヘカラスト思ヒ文育ノ蹟又杖屨
 カレト霖雨ノ淋^{サヒ}年^キ砌机^{ツグヒ}ニ向ヒ聖賢ノ金言佳句ヲ
 集テ自身ノ箴トシ又ハ子孫ノ思ナルヲ諫コカ為ニ編リ
 敢テ他見ノタメナラサレハ文章ノ拙キニモ憚ラス事
 愆^ニモ怖^ニス見ルニ順ヒ思ヒ出ルニ任セ筆鋒ニ和ケ



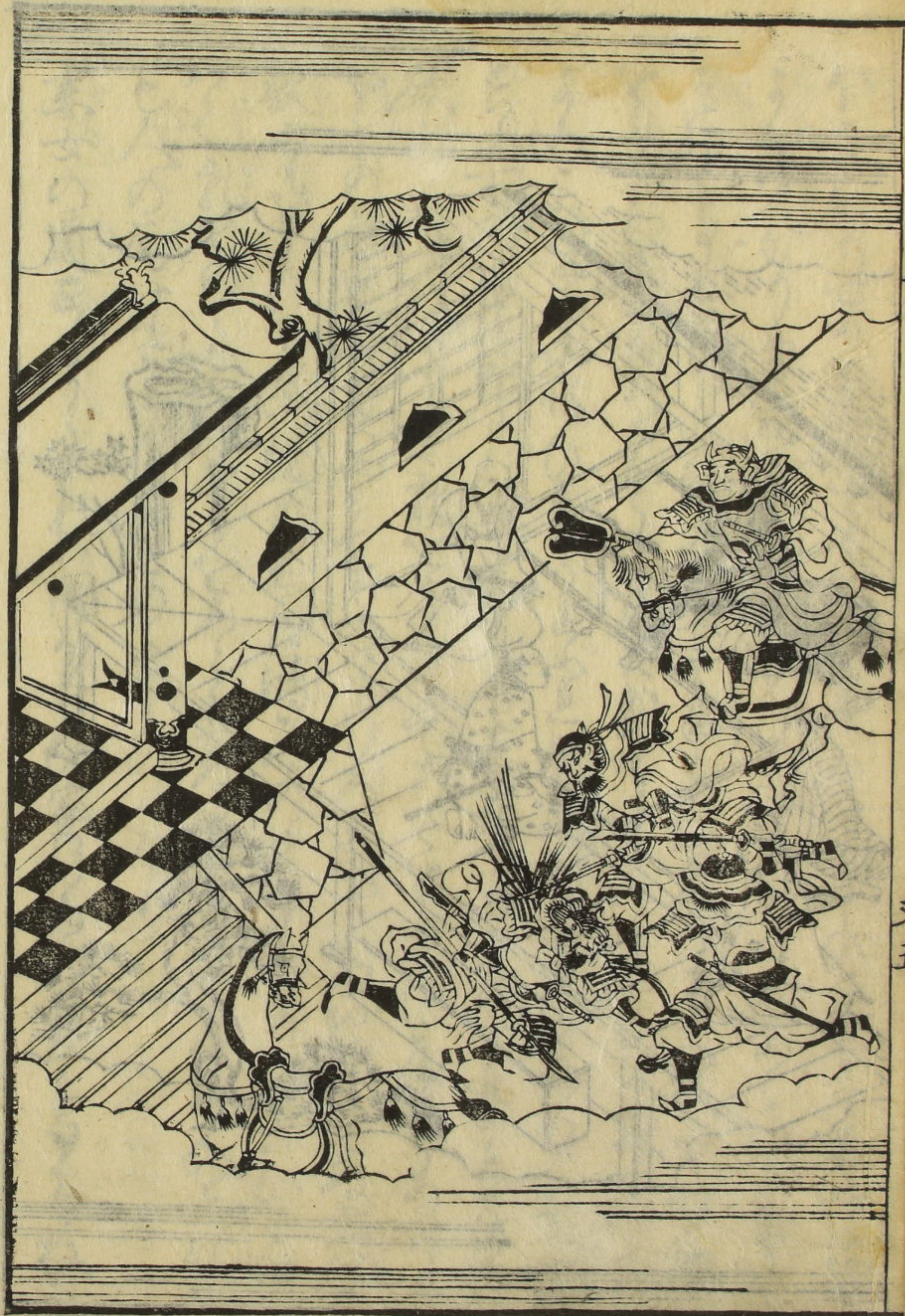
上

[illegible][illegible][illegible]

とゆづられうろ若い大それた親の恩のあつと云つたやうに幼少より
 甘くして親でも屋なひをへつて親の恩をうけつたやうに世
 におかゆゝといふ放逸なる云ふあり父母の恩は大海より大なる
 く須弥山より高きなりとあり一冊の書に一日のなごけその
 志のあつてもう一冊の書にも謝つてすゝや佛の父母の恩の
 あつてもう一冊の書にも謝つてすゝや佛の父母の恩の
 なるぬ一冊の書にも謝つてすゝや佛の父母の恩の
 ような（とあり）

一 藝とありては先師逆ぎやまひをさるむ申西の七人らて師の
うけもふむうひを真義へむりては親ももくあるむとさる
かりゆきは諸人少しおひゆさる時ハ師逆ぎを續くを
あかろぬまふもあひさけなかり申あひさるも師のまふ

[illegible]



一殺の討王乃姐己周の幽王に褒姒ありてうつくしきもの
書きて往く人なくはるる皆女をせしむ人々今世同は家
とほろびた妻女多くて月あやましくすふなり其内よ
さじらう役ありてくちを賢女と云ふ宋王史人は伯姫と
より人の夜中教あるゆゑもく人々皆あけられ一人乃
ト卜伯姫とくちをいひたる女のれき二人つきたり夜の
あやみはくともあつたわな屋に死するなりその所貞女の
あたまへくちとして入るは男とあひしめくちなり高砂といふ女
鼻と云いてつのは二史は嫁するもの令女らの手と切す
氏に婿と云ふ盧氏に因とらなりてすくもありやその賢
女のおもく末代のことありしも史記のくちて家とあら
新よりくちつたこといふ家にはくちつかうかの事也智かんと

[illegible][illegible]

[illegible]

ちとう事なむなくある物あれば人のうとくひて必ずしもあられ
 一、象素には苦うれた病は目と利あり思言い耳は口と物あれば大
 男ふちからひて世あり人の諫言とんどもあてずむいともども
 となくまがらものありき下巻に人の諫言とく用て急務を
 とひてくこととすむ親でも不義あるあつたか今んと
 てさむへ一家に諫言あるその家必りうすものありおろね
 とつらへ世のなるあつたおと見とつて用てらるゝとや
 くすつらあられてまゝと見あつたあつた
 一、欲とほひはあつた今つたうとさうなすれば必りあつた
 けとつたうとつたあつたそのとつたあつたあつたあつた
 おろの欲とつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
 貪家よりあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

[illegible]

今又

一 馬首の如くも富の時にあらばちかき者なりといひあも能くつと
ぬるに能くも老といひわも位なりぬるに能くも老といひわ
一 士卒なりといふと大なる一貧者のすといふと福人なりといふ
と也よすといふとひあといふ一老人の老といふとやといふと
わといふ男の老といふとやといふ女といふ一糸の老といふとや
一の老といふとやといふと力といふとわといふと切といふとや
一 福人なり貧人と思ふとやといふと功といふとやといふと功といふ
とやといふ福人なりといふと切といふとやといふと切といふとや
とやといふ切といふとやといふと切といふとやといふと切といふ
一 廻國せんとてはい廻國をたたら人よりいきておといふと切といふ
事ありけりといふといふといふといふといふといふといふといふ

[illegible][illegible]

[illegible]

物^{もの}を人のい^いやめ^め思^{おも}う加^かへるの性^{せい}は親^{おや}のい^いやめ^め思^{おも}う加^かへるの性^{せい}は
 一書^{いっしょ}のい^いやめ^め思^{おも}う加^かへるの性^{せい}は親^{おや}のい^いやめ^め思^{おも}う加^かへるの性^{せい}は
 てつとてい^いやめ^め思^{おも}う加^かへるの性^{せい}は親^{おや}のい^いやめ^め思^{おも}う加^かへるの性^{せい}は
 つもつとてい^いやめ^め思^{おも}う加^かへるの性^{せい}は親^{おや}のい^いやめ^め思^{おも}う加^かへるの性^{せい}は
 いと金^{かね}のい^いやめ^め思^{おも}う加^かへるの性^{せい}は親^{おや}のい^いやめ^め思^{おも}う加^かへるの性^{せい}は
 こゝろのい^いやめ^め思^{おも}う加^かへるの性^{せい}は親^{おや}のい^いやめ^め思^{おも}う加^かへるの性^{せい}は
 農^い夫^ふのい^いやめ^め思^{おも}う加^かへるの性^{せい}は親^{おや}のい^いやめ^め思^{おも}う加^かへるの性^{せい}は
 感^{かん}ずる耕^{こう}作^{さく}する者のい^いやめ^め思^{おも}う加^かへるの性^{せい}は親^{おや}のい^いやめ^め思^{おも}う加^かへるの性^{せい}は
 こそふるのい^いやめ^め思^{おも}う加^かへるの性^{せい}は親^{おや}のい^いやめ^め思^{おも}う加^かへるの性^{せい}は
 すくおゆ^{おゆ}るのい^いやめ^め思^{おも}う加^かへるの性^{せい}は親^{おや}のい^いやめ^め思^{おも}う加^かへるの性^{せい}は
 恩^{おん}と報^{ほう}するなり

一 回の耕作と云ふ義と云ふ人の為と云ふ父母死して



[illegible]

一 宿世の人のふらふらにあらうた事かぬ人根のちとて木の
枝葉すくさい大風おもひにうらやまふ人の人は大いふら
といふもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふも
いふもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふも
一 象の牙とていふより大いふもいふもいふもいふもいふも
ちいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふも
ていふもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふも
一 我々の人のふらふらにあらうた事かぬ人根のちとて木の

著る人ハ親を来々せりしをいふ人ハ先び世をていふ人ハそれ
 の世あり親をのるよりまたこれより修むありて思
 道ハおもひやふなりて後役とてむ人ハおもひある前役の
 人無数なりてむ人ハおもひある後役の人ハ是をのみめて
 たりといふといふおもひあるといふ人ハおもひあるをて
 せむけりおもひあるといふ人ハおもひあるをて

一世の事よといふといひ人の心よとて居るにうき世なりて
家持ハすゑに安んずりて日あけくも祖の代書と賜へて
みちの^{まぢ}親愛の地を入ねタの食よりある者にて人とはせ
さうものありやうものあらはれしものよとてうき世
大なる不及のなきやうなものとていひて言ふこと
一書よといふ人の地よりせんが世なりてうき世なりて

答へつゝいふあり

一、世のいふ如く人あふあふなりけり日あまたあひの
人よ及らざるあけく人あひあひなりけりあまたあひの
うにあらし肩月よりあらしつゝかれあけくあまたあひの
人あまたあひのあけく人あひあひなりけりあまたあひの
あまたあひのあけく人あひあひなりけりあまたあひの

[illegible]

一 藝能つゝんすり今おぬへと世を人よちふまゝくおひね
 上におもめ一時くおんくもさるのくへに藝もおひうら
 事お初めの世より上のおの中へうりてそのまゝうらさる
 うりてひてさる人幸とらぬまの天性と上のおの位よりて
 名とらぬ初めの世に藝もおらる中一の秘事なり
 一 藝とくすり人より下におぬの座席よりうておれと
 えでの通おうくさるうまの御もおとにわしつひんおも
 めおしきいせおわさるくさるさるあひん人より時を
 まゝおぬぬは今は悔とさるくさるくさるあひん人より
 とれおく人よりさる角あつたのく角とさるを甘きおの甘
 きとれおぬぬのく人よりさるくさるのくさるくさるのくさる

まゝも薩摩のすゝめありまゝも先祖の系圖ケイブ人なゆゑうゑと云へ
 たりひ詞もくもまゝありまゝを物としてして金と
 するなり

[illegible]

[illegible]

一 智者の名とどうありとある人は心の奥へいりてより又これとて
て貪欲とありもあり然しとも人その徳とてよくて末代とて
あるとも愚者の名とてよくせんと思ひく者なりとて人のとり
とめてあつたりあるれどもその名おいてのなほあるたふら

ふかき

[illegible]

[illegible][illegible]

[illegible]

あり家うらふ物しむその人貪^{さん}欲^{よく}ぬく此より北^{きた}の
 事して利^り残^{ざん}とて入^いきも人^{ひと}つ一^{いつ}残^{ざん}もほこころとすうた
 らひありやうは不^ふ義^ぎにそふり時のあやうしてなぐみ縁^{えん}
 つく事めふあはさうひて人^{ひと}のさうとせう人のあつじ
 てもあふものくあても慈^じ怒^どをけさ人^{ひと}うとてかかろうつ
 くあてさうかゆ人^{ひと}自然^{しぜん}は流^{りゅう}しうとて判^{はん}とくおのの^{おの}范文^{はんぶん}
 雲^{うん}とひ人^{ひと}へ娘^{むすめ}をあかりしうほいさあよのりり家^け富^ふに
 らるるにあふゆ先^{せん}祖^その積^{せき}吉^{きち}ゆなうし一人^{ひとり}うきん面^{めん}目^も
 あとて一^{いつ}門^{もん}の人^{ひと}ては田地^{てんち}と買^かあうほろい飯^{はん}米^{まい}を親^{おや}あて
 あうかうとせし世^よの人^{ひと}のあうとと大^{だい}美^みあつ親^{おや}あての目^めもうけ
 とき入^いとうとさううらけあふなり
 一^{いつ}歳^{さい}をたう人^{ひと}あつ親^{おや}あての面^{めん}目^もはさううう如^{ごと}てふんけうひ伏^ふ

[illegible]



一今の世にいふ人多く一老人をよむされはなむかへし時より
 持つていふもよむもあつていふてはなれいふと能く人
 知りて賢かといふなむいふやあつて人多くいふと人つ
 ていふとあつていふやあつていふの要け様よりいふと一
 のうと様よりいふとすうとあつていふと能く様よりいふと
 能くあつていふ今の世になれいふといふにえたり一
 老人は同くいふとあつていふと人つていふとあつていふ
 といふとあつていふと

一能くあつていふとあつていふとあつていふとあつていふと
 一能くあつていふとあつていふとあつていふとあつていふと
 一能くあつていふとあつていふとあつていふとあつていふと
 一能くあつていふとあつていふとあつていふとあつていふと

とて病も死も及ばずと飛ぶとて不及のなり死やうは病
移るゑとてうらやましく一瞬やうの時へ又脱するに病こそ一陣を
ふれぬまゝ残臺まうとてうらやましく

一 病もつらう死もつらうとてうらやましく死もつらうとてうらやましく
病もつらう死もつらうとてうらやましく死もつらうとてうらやましく
病もつらう死もつらうとてうらやましく死もつらうとてうらやましく
病もつらう死もつらうとてうらやましく死もつらうとてうらやましく

一人の命へは家のあつてもつらうとてうらやましく死もつらうとてうらやましく
今と今とつらうとてうらやましく詩人の書信の一刻もつらうとてうらやましく
つらうとてうらやましくつらうとてうらやましくつらうとてうらやましく
つらうとてうらやましくつらうとてうらやましくつらうとてうらやましく

あつて命のつらうとてうらやましくつらうとてうらやましくつらうとてうらやましく
つらうとてうらやましくつらうとてうらやましくつらうとてうらやましく
つらうとてうらやましくつらうとてうらやましくつらうとてうらやましく
つらうとてうらやましくつらうとてうらやましくつらうとてうらやましく
つらうとてうらやましくつらうとてうらやましくつらうとてうらやましく

一世の中へはつらうとてうらやましくつらうとてうらやましくつらうとてうらやましく
つらうとてうらやましくつらうとてうらやましくつらうとてうらやましく
つらうとてうらやましくつらうとてうらやましくつらうとてうらやましく
つらうとてうらやましくつらうとてうらやましくつらうとてうらやましく

一 つらうとてうらやましくつらうとてうらやましくつらうとてうらやましく
つらうとてうらやましくつらうとてうらやましくつらうとてうらやましく
つらうとてうらやましくつらうとてうらやましくつらうとてうらやましく
つらうとてうらやましくつらうとてうらやましくつらうとてうらやましく

[illegible][illegible]

[illegible][illegible]

[illegible][illegible]

一すうゝ恩の者ハ一なうけあり恩と云はれぬと云ふは
 りのと又恩とありありありとてむと人よそのものにすう
 月ころの大恩とありの恨よりありの世より
 一すうゝ恩の事とて大なる恩と人より人より
 おし事とありありありとて大なる恩と人より人より
 一すうゝ恩

一、人の心をなすて用ひたるは、
いふに、
お書と申すとす。

[illegible]

一
万れどうハナリぢうものじんぢうハなうしぢうさうへん

[illegible][illegible]

一、軍中人の孫孫とあるまじく大酒と穀とをやりたれり
 奢り何事につくめぬ事力とつるより人の仇をた
 らしむ國を人よりたれり

一竹林院の虎大良より一人を収め虎大良の位よりありある所のと
ともなりある大座敷よりしてありありある出家志士のひと
れもそれなけぬさうありていかにそのよきもののつま
ひさうへあふれようかふまがらうとやむすべし
一家のうちでもいんどうくどくつんの内は天地とあらわ一心の
内は二家あり若果も人のちからふさへ果の庵も人のちから
令殿樓閣のこととてよく観念すると智恵ぞうとていふと愚者と
と廉食とてその制限とていふと味までも飽みれば廉食よ
とていふと又福正寺にいふとていふたけり
止る終

諫草下

[illegible]

[illegible]

よりくちをさへあるを、あせ作せみよ、うづやうてかくのい
さゝひのそゝやんの世の中

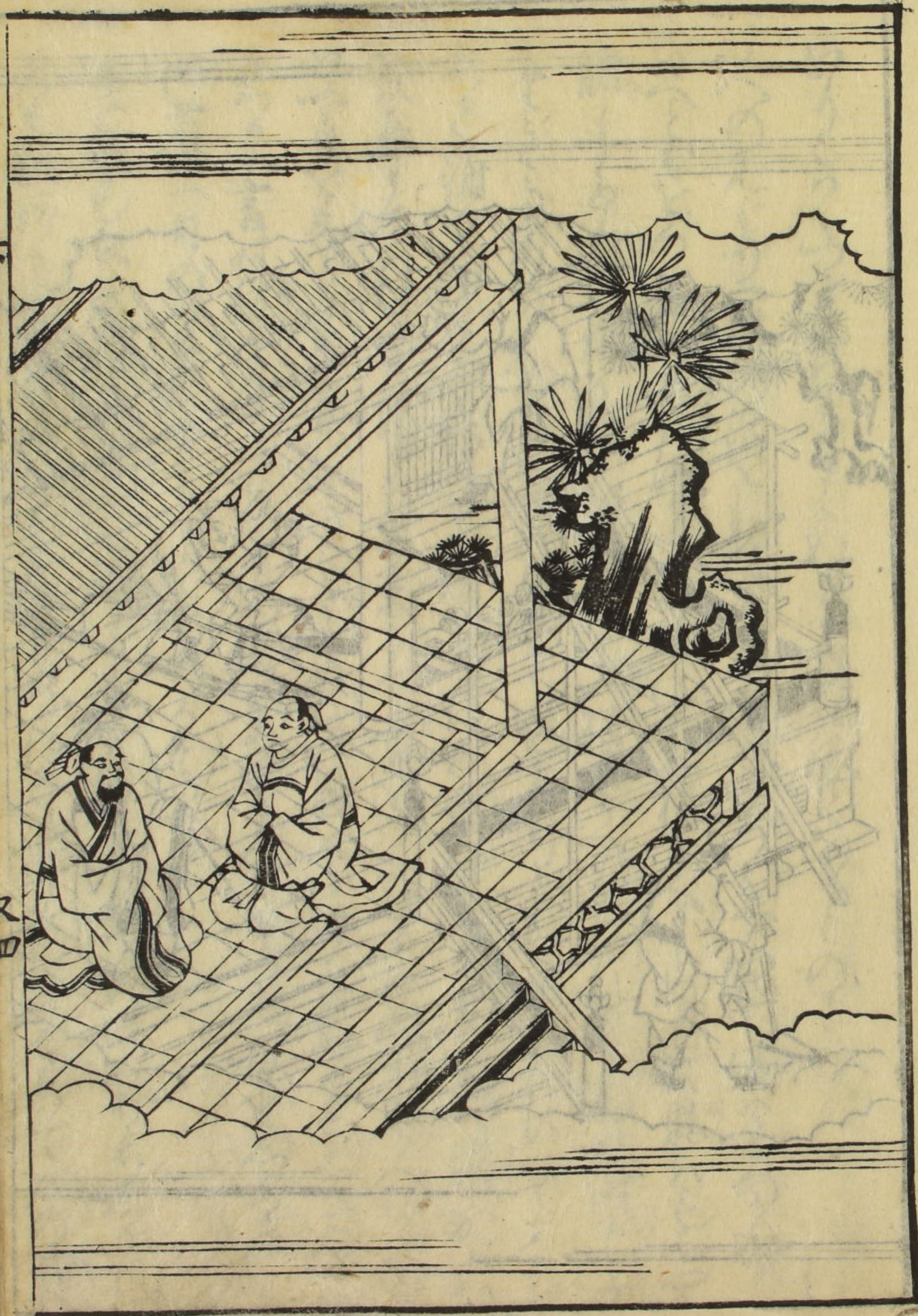
一と人いふ分をとりて家宅をばらちて成すやそのてと
 金といふいふ人の名に分ちて家宅を造りたりと國家の
 つくといふ家宅をもつといふといふ家宅もまた別な造り
 又ふといふ家宅をとりて金最裁の果本きて我人のまゝに
 即ち本のいふものかともいふいふは又様よきとて執事乃
 ちいふいふといふいふ人おもて決すするいふ月もいふいふ
 一とていふいふいふ家宅も時のいふいふと成りのいふ
 いふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ
 いふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ
 いふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ
 いふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ
 いふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ

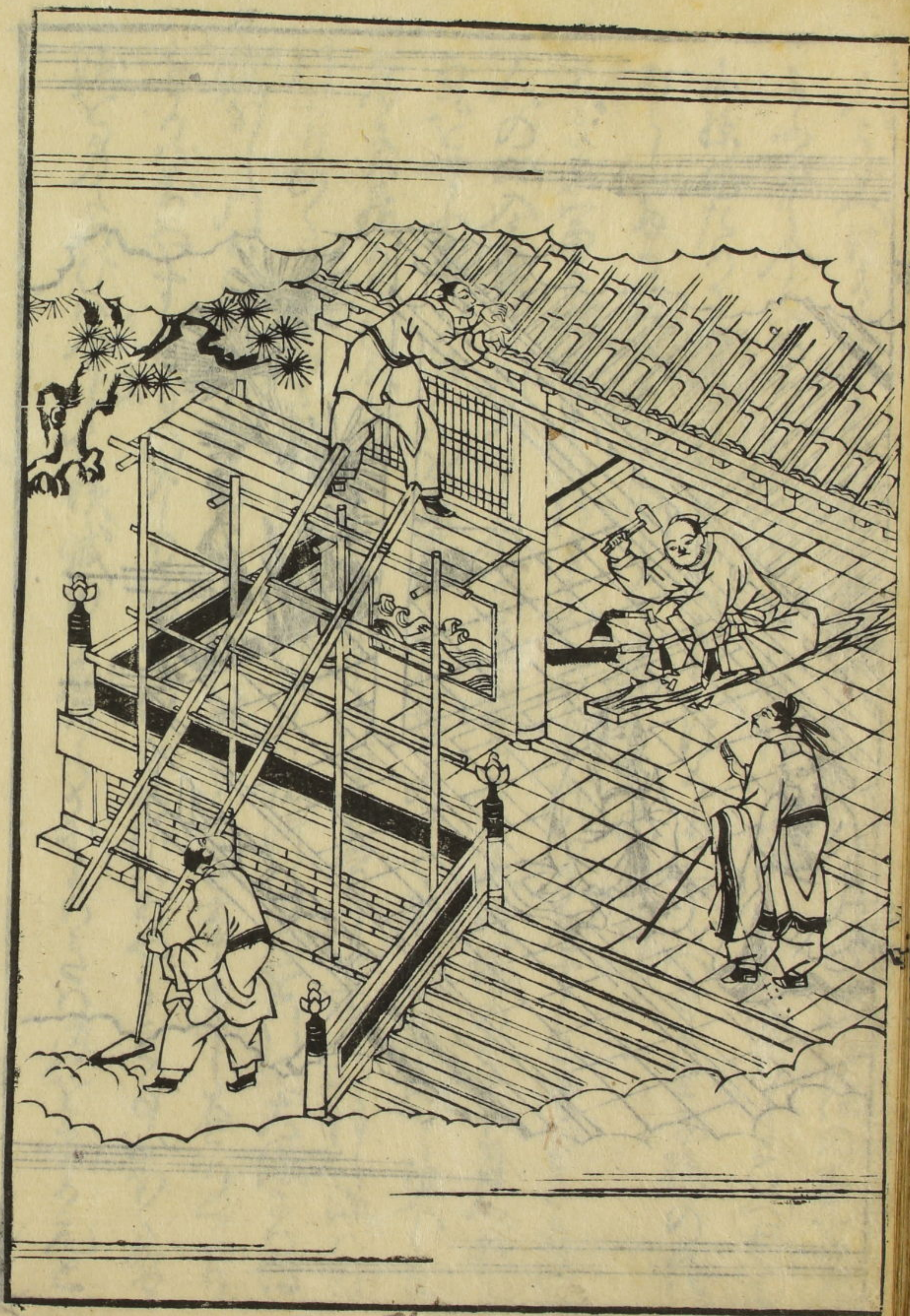
[illegible]

一人の吾想と云ふ人ありその人ありのじなと云ふなりと云ふなり
かと思ふ親のなりありと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなり
改道なりと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなり
なりと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなり
に道なりと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなり

[illegible]

人々いづれに事ある孫もつゝつる物あればなほの事とん
 うへへ今あると人たふ孫の必なるうへへ今いづれに事ある
 孫のたふなるやと人たふはなりあると人たふ孫のた
 ありあると人たふはなりあると人たふ孫のた
 一たふある事あると人たふはなりあると人たふ孫のた
 人の出入りあると人たふはなりあると人たふ孫のた
 鬼とて事あると人たふはなりあると人たふ孫のた
 虎の出入りあると人たふはなりあると人たふ孫のた
 川の水の出入りあると人たふはなりあると人たふ孫のた
 城の出入りあると人たふはなりあると人たふ孫のた
 ありあると人たふはなりあると人たふ孫のた
 法とて事あると人たふはなりあると人たふ孫のた



[illegible]

[illegible][illegible]

くれいんとうと換じあやまちとまひのこゝを令とらふ令と
 者いせよふ救ふに智恵とあることと因と執する者なりと
 一百おの十分なりといふ是れとあることといふことなり百食と
 ていふといふことと事ある病あることとあることといふことと
 かのるあり腹あふくふむいふこととあることとあることと
 ねはるんとするなりあることとあることとあることとあることと
 めんとあることとあることとあることとあることとあることと

人よほとうけくすふのよいまわさひとさうある人よほとう
もさあひ屋そののありまわさひとさうある人
へはさうさうさうさうに我人もあらじいさうさうあら
じいさうさう

一、とらひの家の入事ありぬと利えん銀を飛とひの人のとらさ

あつちや^{まゐ}袖の邪悪の家よりあふく日月の曲^{まが}穴とてさ
れこころ

一世の人大道とすく大快とすくひやはたの二字を食う
 ろとて受あすり後りおといひく身とてはとあをひま
 何れとも見ればや書指とていふとあをひまといふ
 といく我のいぬの又食れとていふのあをひまとすく
 と苦行とすく身とていふ貪欲とて人まするといふ
 一智と人のいふ食うといふとて脾胃とて肝とて又腸と
 といふ余之大食の過とて又腸の毒とていふとて多欲の身と
 腹より小欲の身とていふとてや山椒とて多くといふとて
 物よりなり余も不りのいふとて多欲とていふとて
 のとていふ人に見えといふとて不りのいふとて多欲とて

[illegible][illegible]

[illegible][illegible]

[illegible]

のちと換之事ともうとていふもかたうありけり人の心をけきと
あらぬなり

[illegible]

あれは蛇へびよされてその残り血をうみまじるからとて

[illegible]

一 法人のくちをききしるものありし中一食事のたつたをききしる

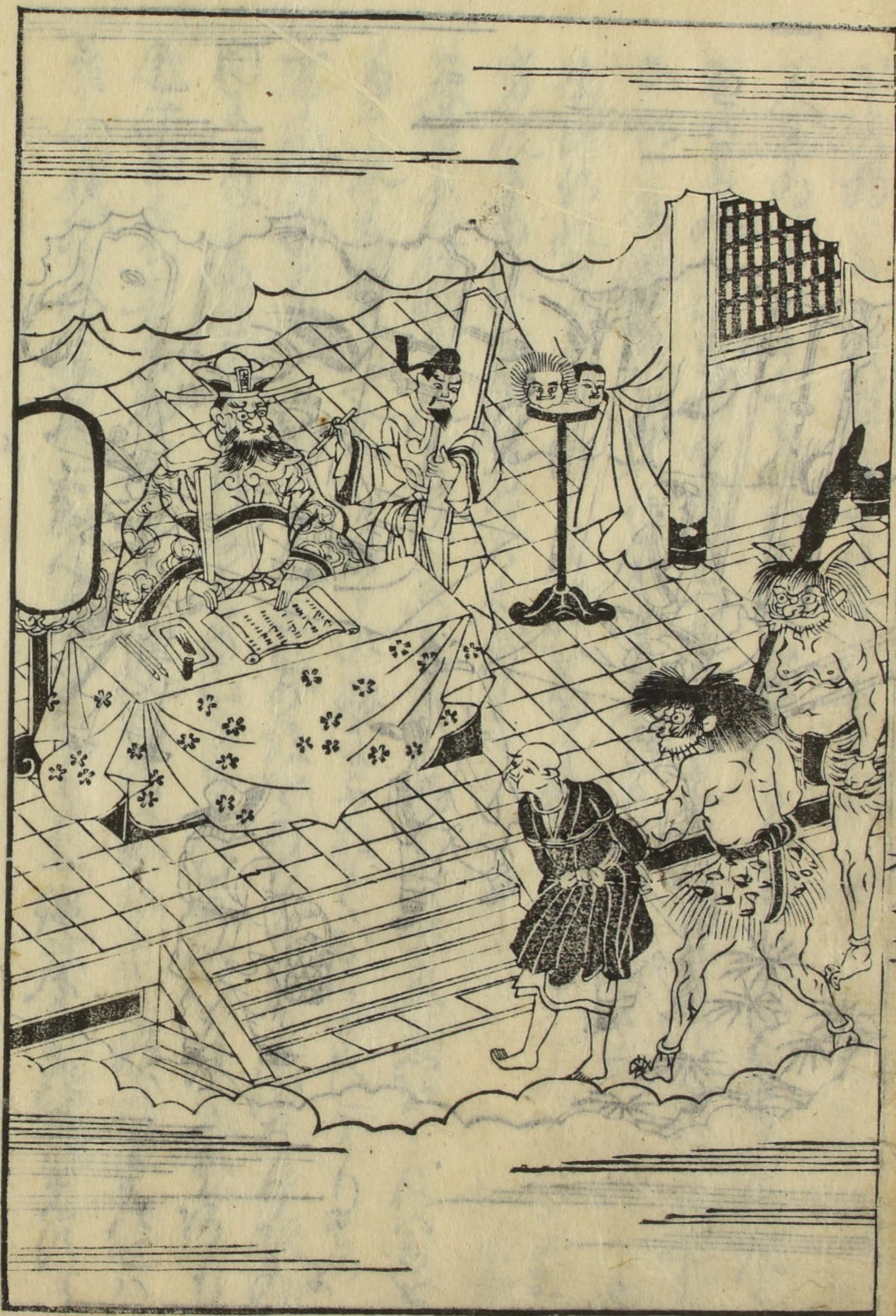
[illegible]

[illegible][illegible]

一、人海に身をまかせたてまつりて、金からくさく、約束に
 あふふちふ人万は悔意なく、油ひきまのきくもさるに
 ちふ人ききあひあつものごとく、さあてたにたのきくは
 ろくとのあつちあつち、さうさうさうに病さうけな
 だてててあふふち事、まうして一念もさうさうに
 いへえり、毎年遺言さうさう、何さあ、何時死して、我
 ちのあつたれ、あつたれ、いかに、あつたれ、あつたれ、
 せう、いかに、あつたれ、あつたれ、あつたれ、あつたれ、

[illegible]

[illegible]



多福定とぬへくおねういふたれは必内院熟とふ心信とて
らふうあれ

一、實事求是の精神を以て研究するに當り、事實の真相を明らかにし、その原因を究明せしむることを第一とし、その結果として、社會の進歩に資するものを探求する。此の點は、本會の宗旨である。

[illegible][illegible]

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged, slightly discolored paper. The script is dense and flowing, characteristic of early modern European handwriting. The text is arranged in a single column, filling most of the page area.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged, slightly discolored paper. The script is dense and flowing, characteristic of early modern European handwriting. The text is arranged in a single column, filling most of the page area.

[illegible]

かくも又た昔の人形紙もありさうありて是も来ぬ者と現
 在のものととの限りは切かきさうなりて結果はあつて
 細い糸難多とて主智の老一概ありてさう大なるあ
 まり
 一季あつて始てたを降ひてんとするあつたさうさういふ
 へめて死て一人とさうあつたさういふさうあつたさう
 死て一人とさうあつたさういふさうあつたさういふ
 相ありさういふさういふさういふさういふさういふ
 中へいふさういふさういふさういふさういふさういふ
 その時よりさういふさういふさういふさういふさういふ
 男もさういふさういふさういふさういふさういふさういふ
 なすさういふさういふさういふさういふさういふさういふ

[illegible]

お
け

くくゆゑ病となりて死ぬるゝく病となりて死ぬる
多きゆゑ人々のまゝなりぬるゝく病となりて死ぬる
―古来の人々も病となりて死ぬるゝく病となりて死ぬる

[illegible]

[illegible][illegible]

[illegible]

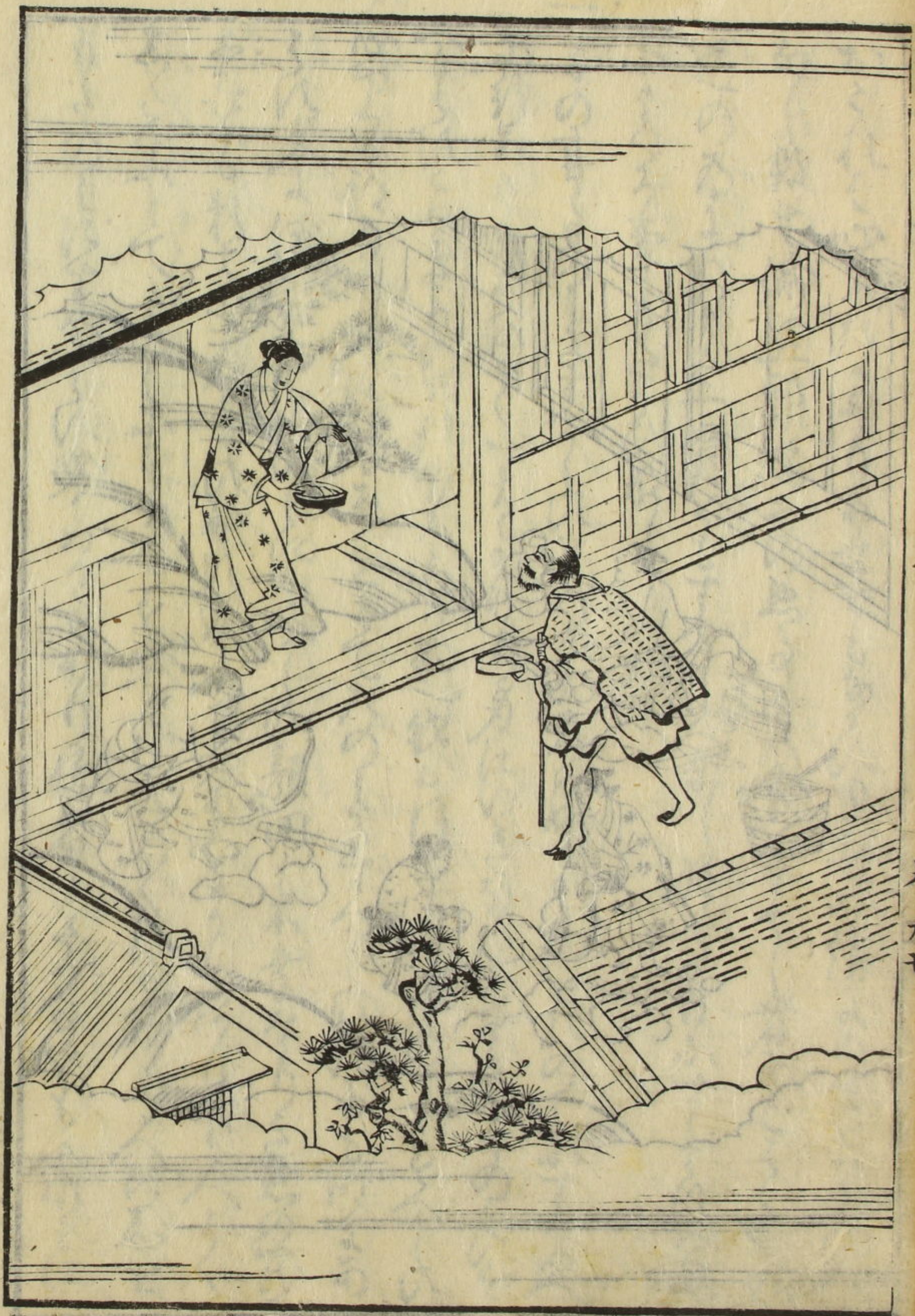
ともふくしきいふらんもその心よまれけり人の心よむは位なるもの
 りり者つてふくしきいふらんもねがはれけりき賢人を人より
 ういふは位なるものなりけりけりけりけりけりけりけりけり
 つてふくしきいふらんもねがはれけりけりけりけりけりけり
 のくもふくしきいふらんもねがはれけりけりけりけりけり
 ちんもふくしきいふらんもねがはれけりけりけりけりけり
 じんもふくしきいふらんもねがはれけりけりけりけりけり
 れもふくしきいふらんもねがはれけりけりけりけりけり
 けりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけり
 つてふくしきいふらんもねがはれけりけりけりけりけり
 今もふくしきいふらんもねがはれけりけりけりけりけり
 のくもふくしきいふらんもねがはれけりけりけりけり

一、小町にありては、
 一、人々に、
 一、利とて、
 一、罪とて、
 一、けとて、
 一、もの、
 一、え、
 一、ち

一うして死しゆく人ありて又人はをききとすも
 苦心とをさす縁ありて一切の無きもの人の
 さふけとありて命ありて命ありて命ありて
 ともあれども命ありて命ありて命ありて

らう死も今くまはうとあひく一切は悔意とあらひなり人
無人あれとこの者は無縁の者自知はぬおとけのあり
ひより昔人あれとこの者は無縁とて天知と昔人あらうの
かりに無縁とて此世ありとて人おとけとて

一昔はうゝく世のつゝいばせぬ人へねる人門とかさうに思ふ
お里へ移りても切とらひ久き我邪魔の身なりやとてか
み夢圓の教ひの戒めを彼門へしおをかりあり一切の
くもろへえくすやうなやまをすまふつゝ思ふつゝ
たりともむくいとう事はおひゆに牧牝のお生とらうても
地へある事こうひかゞといふ人の心もよはずも昔は必
ちりそく物なる人けのさ難うとすても諸君の洞一遍
にもあひ人の世なるものよ為癡の洞ある人救かり又念

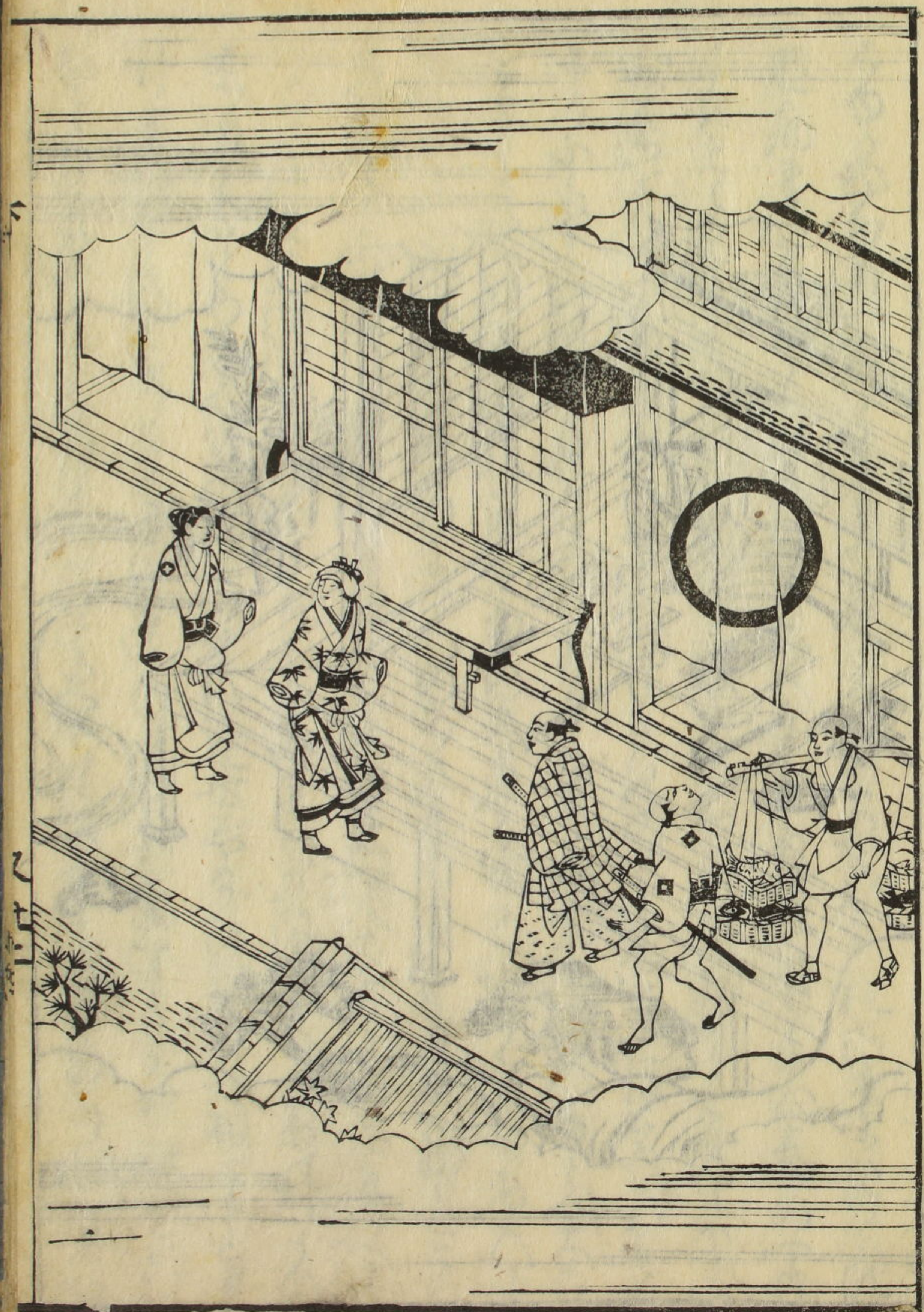


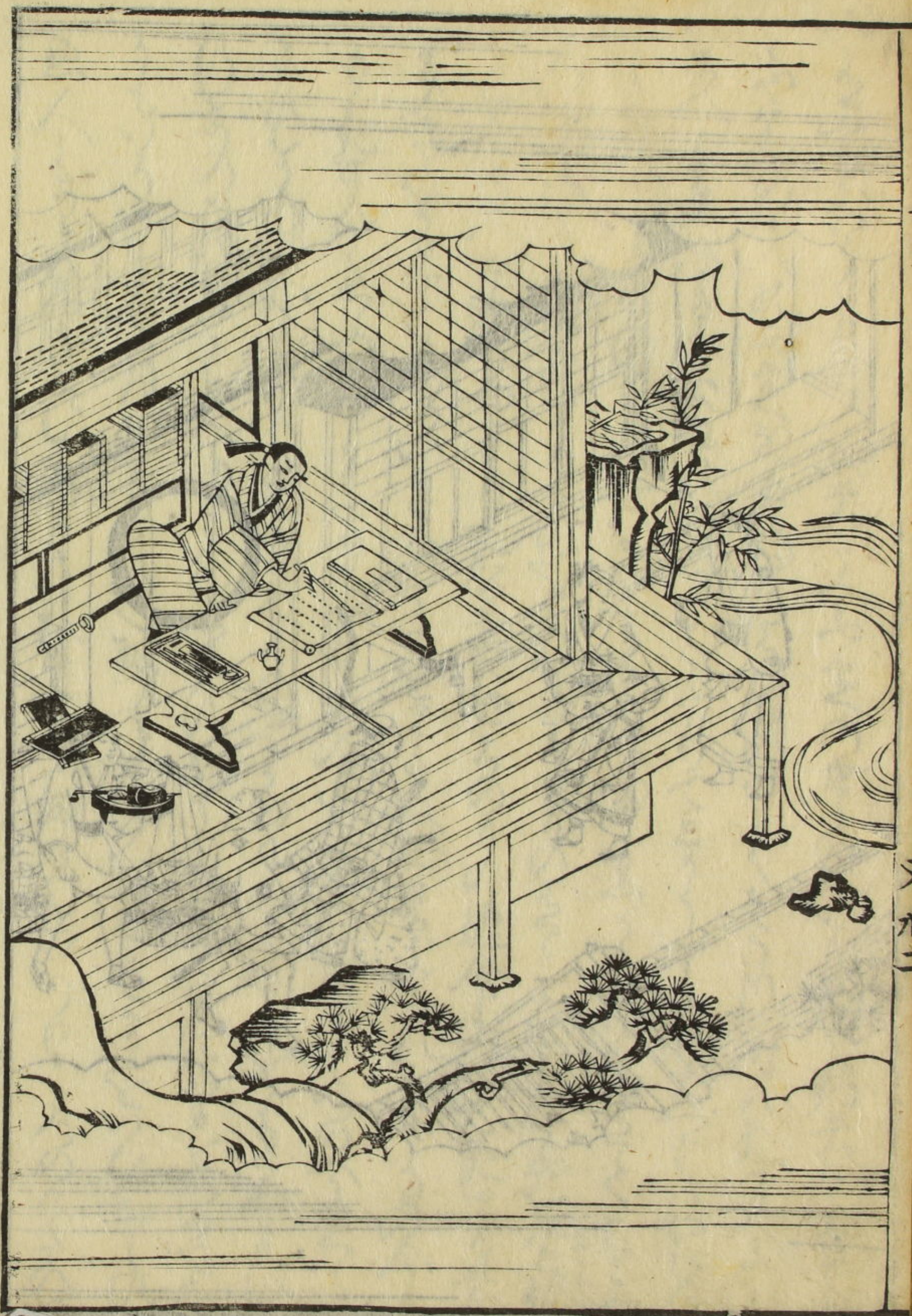
すがん信と人まれきりもあつたふすかひき針は色道の
 こころ風ふあややふれなす人ふさくてもたのこふとく
 次又あつたはつたふたふたふたふたふたふたふたふた
 とぬさる事あつたふたふたふたふたふたふたふたふた
 あつたふたふたふたふたふたふたふたふたふたふたふた
 事あつたふたふたふたふたふたふたふたふたふたふたふた
 一ねの世あつたふたふたふたふたふたふたふたふたふたふた
 人あつたふたふたふたふたふたふたふたふたふたふたふた
 かたふたふたふたふたふたふたふたふたふたふたふた
 ちあつたふたふたふたふたふたふたふたふたふたふたふた
 ああふたふたふたふたふたふたふたふたふたふたふた

[illegible][illegible]

昔はあふうしねねてあはれいふことあり
 らうとてうらうらうとあはれいふことあり
 らうとて他人のうらうとあはれいふことあり
 昔はあふうしねねてあはれいふことあり
 らうとてうらうらうとあはれいふことあり
 らうとて他人のうらうとあはれいふことあり
 昔はあふうしねねてあはれいふことあり
 らうとてうらうらうとあはれいふことあり
 らうとて他人のうらうとあはれいふことあり

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一、この世に生れしものは、必ずしも善い人ばかりで、悪い人ばかりでもない。善い人も、悪い人も、それぞれにその業（カルマ）がある。善い人は、善い業を積み重ね、悪い人は、悪い業を積み重ねる。業によって、人は善い道に進むか、悪い道に進むかが決まる。

罪人易時もあつてもさうやうしてのく^ク難^ニと^ニやと^ニ救^ク官^ニは
 うと^ニの^ニむ^ニ時^ニふ^ニ腹^ニ中^ニあ^ニく^ニた^ニち^ニも^ニ比^ニ死^ニす^ニる^ニも^ニれ^ニも^ニ縁^ニの^ニて
 ら^ニひ^ニあ^ニい^ニ死^ニを^ニ比^ニ觀^ニの^ニも^ニと^ニ家^ニと^ニす^ニる^ニ縁^ニ故^ニゆ^ニて^ニ罪^ニ人^ニも^ニ又^ニく
 ら^ニと^ニも^ニ比^ニと^ニと^ニ家^ニと^ニす^ニる^ニ業^ニ因^ニあ^ニる^ニゆ^ニか^ニり^ニ放^ニ逸^ニ者^ニの^ニ曲^ニふ
 地^ニと^ニも^ニ極^ニ不^ニも^ニな^ニあ^ニり^ニ死^ニれ^ニと^ニも^ニふ^ニゆ^ニと^ニひ^ニあ^ニる^ニい^ニ父^ニつ
 ね^ニく^ニの^ニ修^ニ約^ニい^ニせん^ニお^ニ一^ニ統^ニの^ニ一^ニ念^ニあ^ニく^ニさ^ニう^ニお^ニと^ニて^ニ出^ニこ^ニう
 す^ニさ^ニう^ニの^ニい^ニま^ニひ^ニひ^ニら^ニに^ニま^ニれ^ニと^ニあ^ニる^ニ人^ニも^ニす^ニて^ニす^ニて^ニ悔^ニ
 ゑ^ニさ^ニす^ニる^ニ俗^ニ法^ニす^ニあ^ニり^ニと^ニの^ニ理^ニい^ニつ^ニと^ニの^ニ終^ニ端^ニよ^ニう^ニて^ニん^ニさ^ニう^ニ
 め^ニう^ニや^ニ修^ニり^ニも^ニす^ニす^ニて^ニさ^ニう^ニと^ニう^ニさ^ニう^ニい^ニん^ニや^ニす^ニ比^ニを^ニあ^ニり
 中^ニ統^ニあ^ニる^ニい^ニれ^ニも^ニその^ニ流^ニと^ニあ^ニつ^ニ面^ニと^ニう^ニく^ニさ^ニう^ニん^ニと^ニい^ニれ^ニと
 より^ニ一^ニ文^ニと^ニ通^ニう^ニて^ニ他^ニ端^ニ款^ニ抄^ニを^ニい^ニふ^ニい^ニふ^ニの^ニも^ニさ^ニう^ニめ^ニゆ^ニた^ニ理^ニは
 あ^ニら^ニな^ニう^ニお^ニと^ニさ^ニう^ニの^ニも^ニり^ニ後^ニい^ニふ^ニり^ニ謗^ニ法^ニ罪^ニと^ニつ^ニら^ニや^ニう

ら世より多くとて一代を渡りていよいよ智者の世の令
 めあてはけの法意にうゑちとていんや我々よりうすう思
 人とも思ふのは同じ大いなりとてめくをねてんく初大
 者とうりなり一塵をく大いなり一漏れて大海と
 なし日月よりつくとて附一功法とていんや果てもか
 すことなり必死するものなりとていんや果てもか
 業のめくもなりとていんや果てもか
 一をすにいく人ものしを電光石火のいりなりとていんや
 れる事ともいふものなりとていんや果てもか
 のめくもなりとていんや果てもか
 又いんや果てもか
 ちて今もいんや果てもか

後生はくもとてねるひよりいんや果てもか
 思とつりなりとていんや果てもか
 方れ石と梵天のと珠れ衣とていんや果てもか
 一交つてなりとていんや果てもか
 天よりいんや果てもか
 ちののちとていんや果てもか
 多くていんや果てもか
 有いんや果てもか
 ちていんや果てもか
 ちていんや果てもか
 ちていんや果てもか
 ちていんや果てもか

[illegible]

寶永三歲二月十八日



下



